

# 令和6年度 学習計画(シラバス)

教科	科目	対象学年 コース	単位数	担当者氏名	教科書 著者 発行所	使用教材・発行所
芸術	書道 I	1	2	金杉 響	書 I 高木聖雨 他16名 光村図書	
指導の重点	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
評価の観点	知識・技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。				
	思考・判断・表現	書表現の諸要素を感受し感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。				
		文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。				
		主体的に学習に取り組む態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。				
学習の評価	1. 古典の臨書作品を提出することで「書への関心・意欲」・「書表現の構想と工夫」・「創造的な書表現の技能」を評価する。 2. 自己の反省と他者の臨書作品の感想を述べることで「書への関心・意欲」・「鑑賞の能力」を評価する。 3. 漢字仮名交じり書、篆刻作品を提出することで「書への関心・意欲」・「書表現の構想と工夫」・「創造的な書表現の技能」を評価する。 4. 上記1・2・3を総合的に評価する。					
学期	月	考查	単元	学習内容	学習の目標(評価)	
1	4		資料	1. 書写で学習したことの復習 2. 用具、用材の扱い方 3. 書くときの姿勢	・小中学校の国語科書写で学習した内容を確認する。 ・書くときの姿勢や基本的な筆の持ち方、構え方を身に付け、目的や場面に応じて適切に使い分ける必要があることを理解する。 ・用具・用材(筆・紙・墨・硯)の種類やそれぞれの特性や用途を理解する。	
			漢字の書	1. 孔子廟堂碑 2. 九成宮醴泉銘 3. 雁塔聖教序	・古典の書かれた時代背景を知り、古典の美について理解し、臨書する。 ・北魏時代に書かれた「牛欄造像記」を鑑賞し、力強く角張った方勢の切れ味鋭い書風を感じ取る。また、臨書を通して露鋒や側筆の筆遣いを学ぶ。 ・「孔子廟堂碑」を鑑賞し、伸びやかな点画や向勢で丸みのある字形、柔和な書風を感じ取る。また、臨書を通して、向勢の構え、点画の長さ、文字の重心などを学ぶ。 ・「九成宮醴泉銘」を鑑賞し、鋭く引き締まった点画や背勢がもたらす厳格な書風を感じ取る。また、臨書を通して、背勢の構え、点画の構成、文字の重心などを学ぶ。 ・清書後、作品について批評し合う。 ・「雁塔聖教序」を鑑賞し、抑揚を利かせた点画や、横画の強調がもたらす動きのある書風を感じ取る。また、臨書を通して、点画ごとに異なる抑揚や行書的な筆脈、点画の構成、文字の重心などを学ぶ。 ・「顔氏家廟碑」を鑑賞し、肉太の点画や向勢の構えがもたらす力感あふれる書風を感じ取る。また、臨書を通して、正方形で向勢の構えや肉太ながら空間を残した点画構成などを学ぶ。 ・清書後、作品について批評し合う。 ・四つの古典の用筆・字形を比較分析し、臨書を通して気づいたことや最初の印象との変化などについて話し合う。	
			楷書について			
				4. 顔氏家廟碑 5. 唐の四大家の比較	・「顔氏家廟碑」を鑑賞し、肉太の点画や向勢の構えがもたらす力感あふれる書風を感じ取る。また、臨書を通して、正方形で向勢の構えや肉太ながら空間を残した点画構成などを学ぶ。 ・清書後、作品について批評し合う。 ・四つの古典の用筆・字形を比較分析し、臨書を通して気づいたことや最初の印象との変化などについて話し合う。	
	5		篆刻	1. 姓名印の制作	・印の使い方や種類を知る。 ・篆刻に必要な用具とその使い方理解する。 ・各自の名前を字書で調べる。 ・印面に布字をして刻す。	
2	9		行書について	1. 蘭亭序	・古典の書かれた時代背景を知り、古典の美について理解し、臨書する。 ・行書と楷書を比較し、点画の丸み・連続・省略などの特徴を理解する。 ・「蘭亭序」を鑑賞し、抑揚を利かせた用筆や筆脈により自在に変化する文字の姿に着目する。また、臨書を通して、線質や点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を学ぶ。	
				2. 風信帖	・古典の書かれた時代背景を知り、古典の美について理解し、臨書する。 ・「風信帖」を鑑賞し、力のこもった線質や手紙ならではの即興性、軽妙さに着目する。また、臨書を通して、線質や点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を学ぶ。	
	10		隷書について	1. 曹全碑	・「曹全碑」を鑑賞し、隷書の成立過程や公式書体としての性質を知る。また、臨書を通して、扁平な字形、藏鋒、中鋒などの用筆や波磔、転折、左払いなどの形と用筆を学ぶ。	
				仮名の書	1. 仮名の基本と連綿	・漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を知る。 ・仮名が現在使用されている一書一字の平仮名に統一された経緯を知り、平仮名と変体仮名の違いを理解する。 ・平仮名とは系統の異なる片仮名成立と字源について理解する。
3	1		仮名の書	1. 高野切第三種	・「高野切第三種」を鑑賞し、伸びやかな線質や流れるような連綿がもたらす典型的な仮名の美を感じ取る。また、臨書を通して、字形や線質、連綿の法則を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を学ぶ。	
			漢字仮名交じりの書	2. 漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じりの書の表記の特徴を理解する。 ・作例の形式(はがき・原稿・書作品など)と文章の内容を確認し、漢字仮名交じりの表記が日常から芸術まで幅広く使われていることを理解する。 ・様々な漢字仮名交じりの書を鑑賞する。	
			漢字仮名交じりの書	1. 表現方法と制作	・自分の好きな言葉を書く。創作の手順を理解して書く言葉を決め、古典や古筆の学習を通して学んだ知識・技能を生かして構想を練る。工夫しながら試作を重ねる。落款を入れ、作品について批評し合う。	
	2		硬筆	1. 硬筆	・日常用具などで、正しく、美しい楷書をプリントを利用して練習する。	
	3					